

平成16年6月15日(火)

## 本日の授業 —前文脈としての大人社会の力(1)—

溝上 慎一(高等教育研究開発推進センター助教授)

### 1. はじめに

- ・西山先生は学問的 vs 溝上は身近な実践家 ?

### 2. 前回の感想 :

- (1) 武内清@上智大学文学部の「真面目化する大学生」(前回資料3)について<資料1・2>

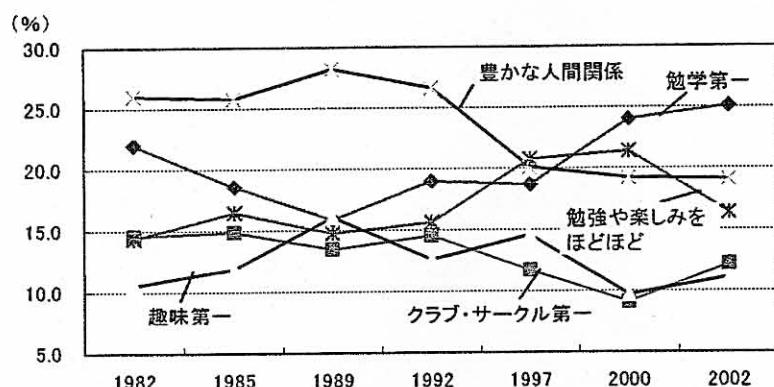


図 大学生活での重点

(注1) 全国大学生活協同組合連合会「学生の消費生活に関する実態調査」各年度より

(注2) 2002年時の分析対象者(有効回答者)は全国66国公私立大学の学生12715人である。

(注3) 2002年度調査では、図の項目以外にも「資格取得第一」「パート・貯金」「何となく」「その他」があるが、ここでは主として10%以上の該当率をもつ項目だけを抽出して作図した。

### 農学部・二回生 男

資料4の武内清のレポートに対して、溝上先生がどのような違和感を覚えたのかもう少し詳しく聞きたいです。というのも、私 武内さんの言葉に大変共感してしまったのです。能のサークルの先輩が言っていたことなんですが、ほんの4、5年前までは部員が酒を飲みつつサークルのBOXで夜を徹して芸談にふけるようなことがよくあった、と。ところが今はみんなすぐ帰る。次の日の授業に出なきゃならないから。この「真面目」さは何なのだ、と。

僕は大学を「学問する場」として捉えているので、学生が講義にしっかり出るようになったのは、まあ、いいことなのかな、と思うのですが、どうも全体的に大人しい学生が多い気がしてならないです。小粒感があるというか。昔からそうだったんでしょうか? 今度詳しく教えて下さい。

### 農学部・一回生 女

真面目化する大学生とありましたが、京大生を見ているとほとんど納得いかない気がします。

少なくとも私のまわりで勉強第一と言っている人はほとんどいません。 実際、私もクラブ第一だと思っています。

## (2) おもしろい授業をすれば、学生は受け身になる？

工学部・二回生 男

「面白い」授業をすればするほど学生は受身になっていくと言っていましたが、個人的には逆の気がします。普通の学生はそんなものなのですか。

授業が面白くなかったら面白いものを見つけよ、どうしたら面白いのか言ってみろ、という指摘は衝撃的でした。私はそれに答えられるつもりですが。

## (3) アウトサイド・インは今でもある？

工学部・一回生 男

主体的に何かをするということはそれほどに求められる能力であるのか？ 大衆化してしまった大学の中で流れに身をまかしてしまっている学生がたくさんいてもよいように思う。

理学部・一回生 男

本当に現状は構造が変わって「アウトサイド・イン」から「インサイド・アウト」になったんでしょうか？ 個人的には単に「アウトサイド・イン」の「イン」の部分が小さくなって「アウト」に取り残される人が増えただけではないでしょうか。

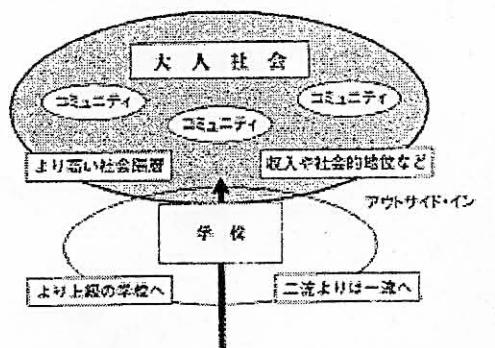


図 1-9 1960 年代青年の生き方ダイナミクス（アウトサイド・イン）  
（注）『学校』が「大人社会」の内に片足を踏み入れているのは、「より上級の学校へ」「二流よりは一流へ」といった条件を満たす学校に入ることが、かなりの部分より高い社会階層の「大人社会」に参入できる可能性を決定しているからである。

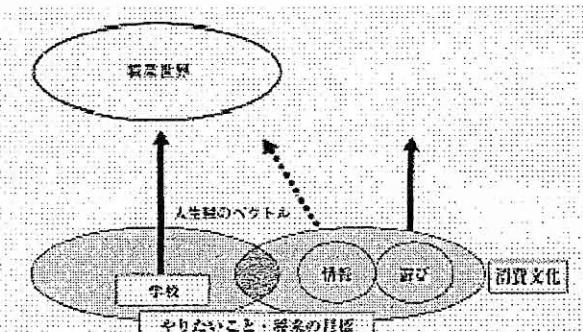


図 1-10 1990 年代以降の現代青年の生き方ダイナミクス  
（インサイド・アウト）

出典 溝上慎一『現代大学生論—ユニバーシティ・ブルーの風に揺れる—』NHK ブックス

総合人間学部・一回生 男

資料6に見られる構造の変化は「大学生」という枠だけでは捉えられない、大きな問題をはらんでいるように思う。それは、社会全体が、全体との調和を重視する方向から個々人を大切にする方向へと変わってきたということだが、そのきっかけ、背景、理由など不明確な点が多い。6回の授業の中で、これに触れる機会があるものと期待している。

一つ、昔から気になっているのが、小→中→高→大→企業という成長(?)の図式。このエスカレーターになぜ乗っていないければならないのか、他に道はないのか、という疑問を抱く。小→中→高ぐらいまでは納得がいく。しかし、特に、大→企業となると、なぜ大学を卒業すると就職なのか、ということが分からぬ。そもそも大学は学問を探求する場であって、有利を求める企業とは質を異にしている。こうした疑問への手がかりを、得ていきたいと思う。

### (3) 現代の大学生に求められるもの？

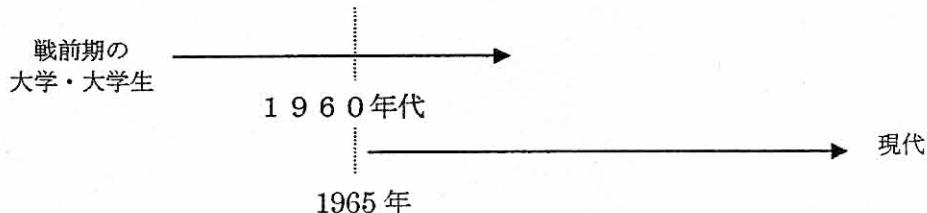
理学部・二回生 男

西山先生の話の中でも(一般にもですが)大学(大学生)に求められるものはその時代の雰囲気(戦時かどうかなど)に左右されるということでしたが、では昨今の”大学(大学生)に求められるもの”はいったいどういった世相の反映なのでしょうか？ そもそも何が求められているのでしょうか？

学部不明・一回生 男

大学生として今何をしなければいけないのか、というのがはっきりわかっていない。勉強だけしていればいいのでもないだろうし、サークルやバイトに明け暮れてもいけないと思う。これから自分の、そして日本の将来のために私たち大学生ができることを見つけ出さなくてはいけないと思います。僕にはそれがわからないので、簡単にでも教えてくれたらうれしいなと思います。

### 3. 「1960年代」という時代一大人社会（前文脈）の力を知るー＜資料3＞



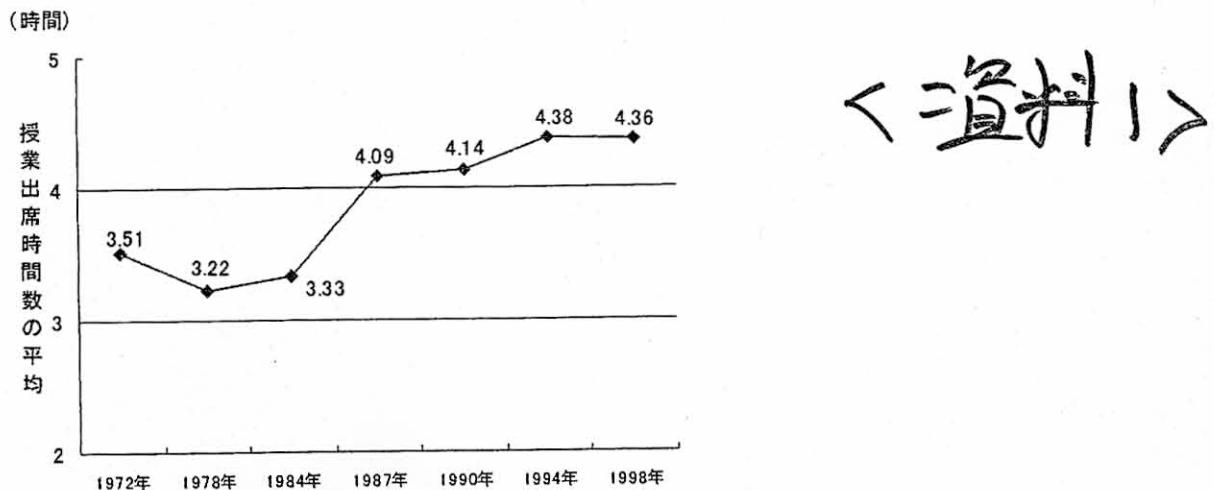


図 学生の授業出席時間数／日の平均の推移（1972～1998年）

(注) 日本私立大学連盟 (1992)、日本私立大学連盟学生部会 (1997、2000) をもとに作成。

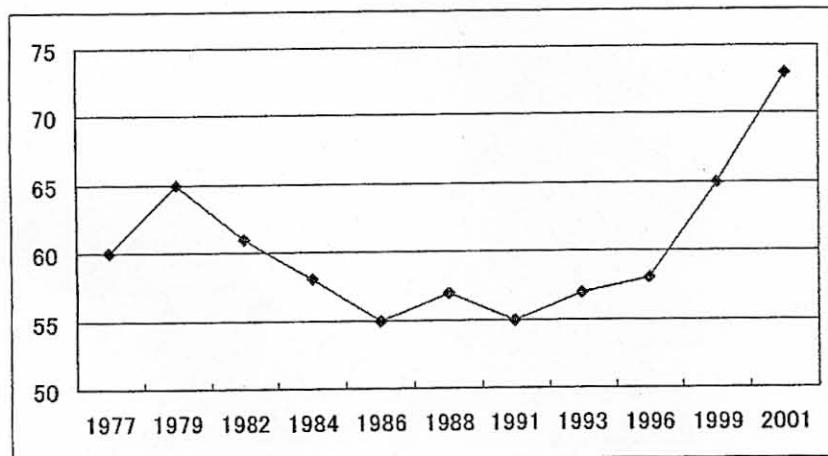


図 関西学院大学総合教育研究室『カレッジコミュニティ調査』「学生の授業出席率推移」

(注) 谷田 (2001) p.4／出席率=出席講時数／登録講時数で算出

京都府立同窓会(評議)小委員会

資料2

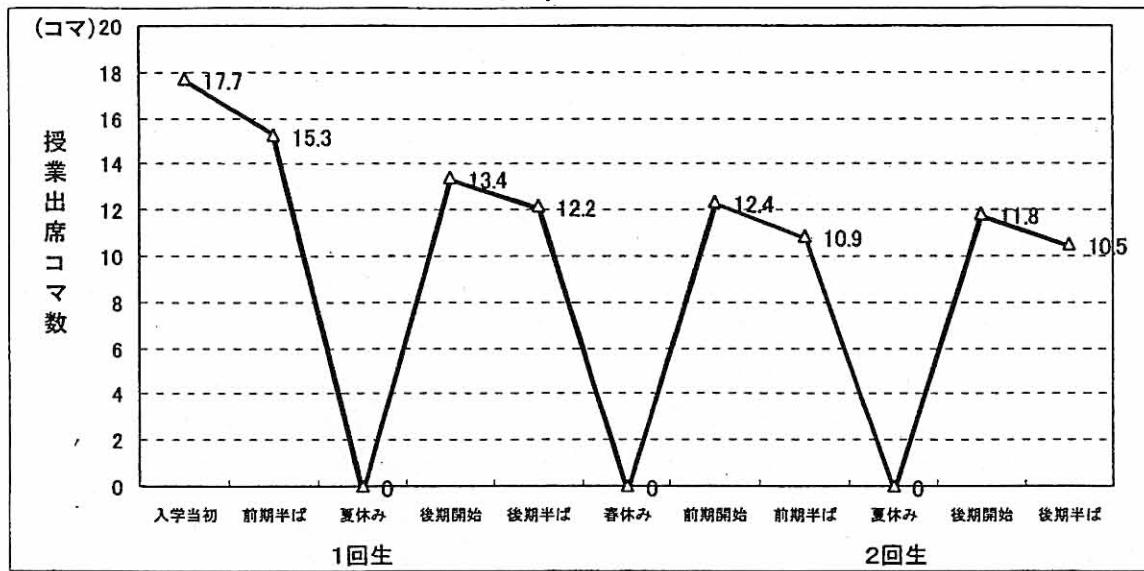
第4部

教育改善のための1・2回生アクト調査 2002年

問15-b あなたの入学以降の生活や学習についてお尋ねします（授業出席コマ数）

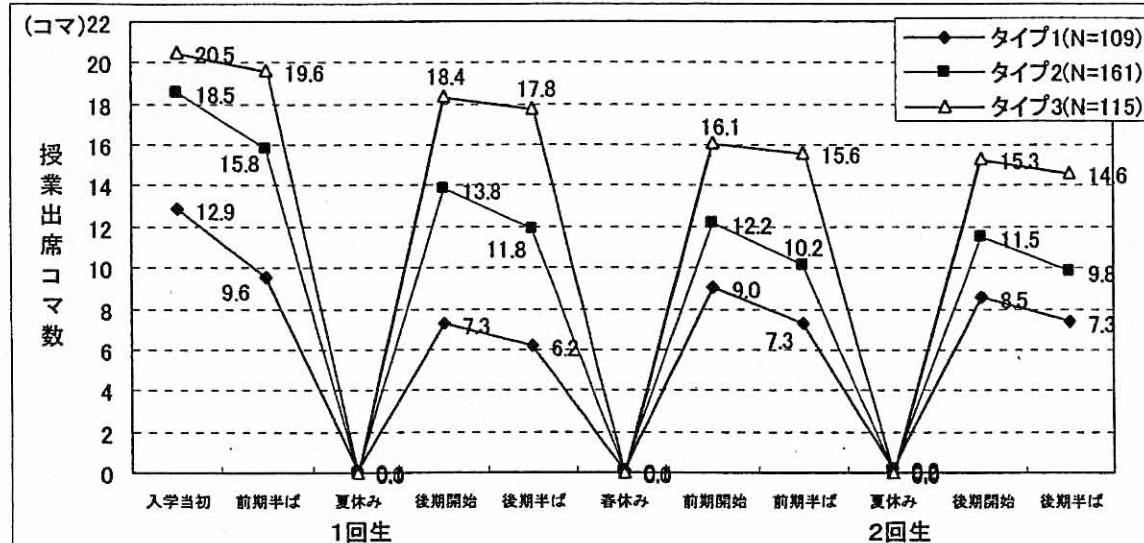
授業出席コマ数の平均は1回生で12～15コマ、2回生で10～12コマ

<全体>



(注) 授業出席コマ数および自習時間数で、たとえば「3～5コマ(h)」と回答した者は、中央値を入力した（この場合は4コマ(h)）。

<タイプ別>

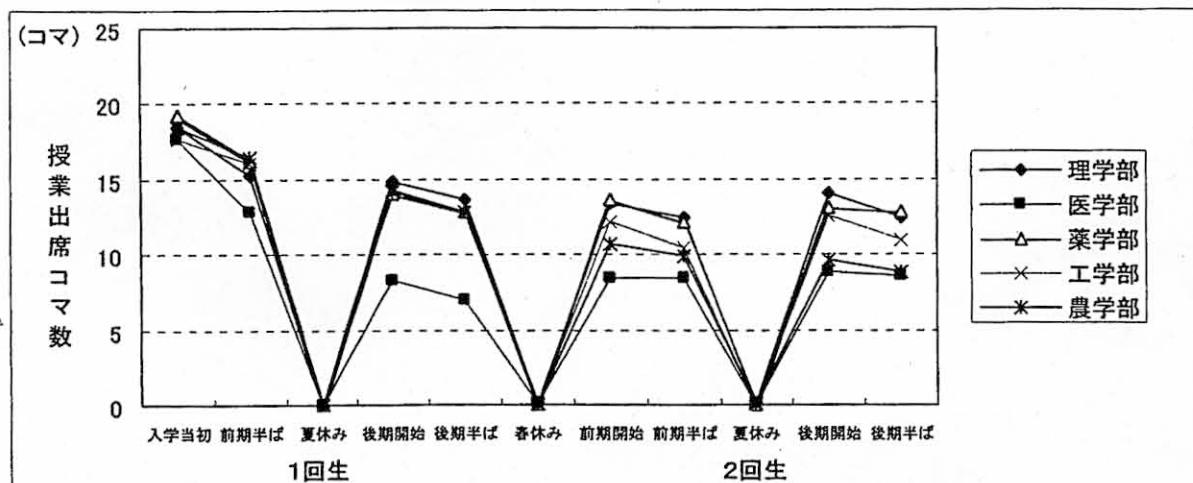
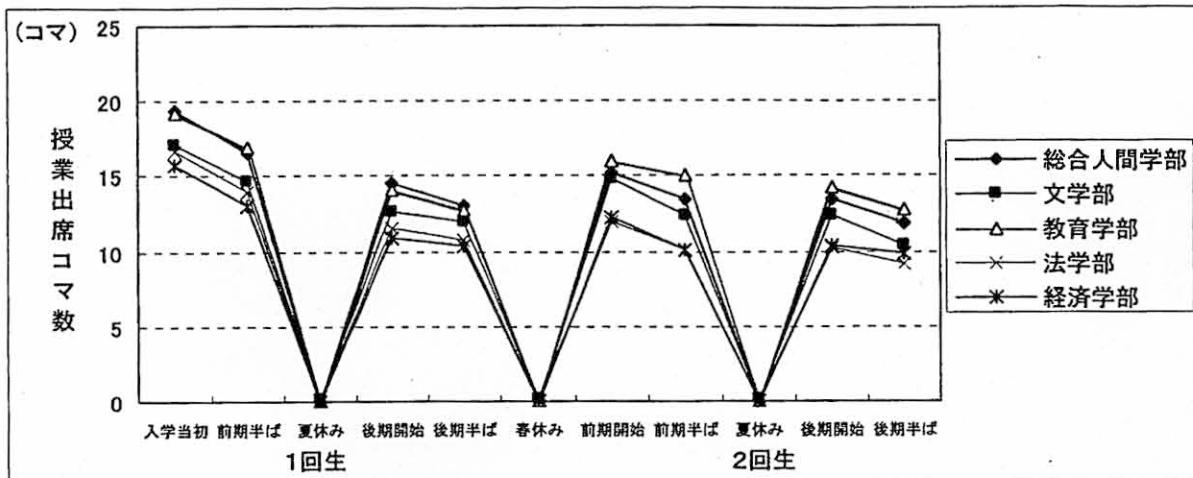


(注) 類型化の分析は、以下の手続きによる K-Means 法によっておこなった。（1）データ数が多いことから、15%のランダムサンプルを抽出する、（2）クラスタ数を2～5の範囲で変えておこない、解釈可能なクラスタ数とクラスタ中心を決定する、（3）（2）の初期クラスタ中心にしたがって、全データを分類する。

授業出席コマ数の平均は、入学当初から2回生にかけて徐々に少なくなっています。およそ1回生で12~15コマ、2回生で10~12コマの出席率である。

タイプ別に見ると、1回生の前期には平均20コマ近く出席しているタイプ3の学生が少なからずおり、驚かされる。

#### <学部別>



学部別に見ると、文系では総合人間学部、教育学部の学生の、理系では理学部、薬学部の学生の授業出席コマ数が多い。他学部に比べて少ないのは、医学部の学生であった。

# <資料3>

○水戸高等学校

宮原誠一(編)(1960). 青年の学習－勤労青年教育の基礎的研究－. 国土社より

○アイデンティティを持つために必要な要素

西平直 1997 「アイデンティティ」出自～その言葉の生きて働く場面 宮下一博企画『アイデンティティ(エリクソン理論)の本質を探る』日本教育心理学会第39回大会発表論文集. S58.

アイデンティティの初期経験

Erikson,E.H. 1963 Childhood and society.(2nd Ed.) New York: W.W.Norton. (original work published 1950)(仁科 弥生訳『幼児期と社会 I・II』みすず書房、1977／1980)